



**令和3／4年産期**  
**サトウキビ収穫最盛**

種子島地区において12月6日、令和3／4年産期サトウキビの受入れが始まりました。中種子町の新光糖業では、サトウキビ受入開始式が行われ、生産者代表や行政、新光糖業、JAなどの関係者ら約50人が出席しました。トラックに山積みになったサトウキビが次々と工場に搬入されると、出席者は拍手しながら見守りました。今期は、例年生産者を悩ませていた台風や強風などの



被害が少なく、新植・株出しともに平年以上の生育状況で、生産量15万2922トと5年ぶりの15万ト越えとなる見込みです。



式では、種子島糖業振興会の田淵川寿広会長が「近年、サトウキビを含む農業全体が高齢化の進行で厳しい状況だが、サトウキビ産業の発展に向けて関係機関一体となって取り組んでいきたい」と話しました。今期の受け入れは4月16日まで行われる予定となっており、約4カ月間にわたる収穫に種子島全域が活気づきます。



**ブロッコリー出荷開始**  
**出発式で出荷を祝う**

JA中種子野菜集荷所で12月7日、令和3年度産ブロッコリーの出発式が行われました。式には、生産者代表や行政、くみあい食品、JAなどの関係者ら約20人が出席。関係機関代表者7人がテープカットを行い、出発を祝いました。種子島では、厳寒期でも安定して露地栽培が得意地域性を生かせるブロッコリーが人気を集めており、農家に定着しています。



JAでは、面積拡大に伴い、播種を段階的に行うなど集出荷体制に支障が出ないよう対応しています。今期は、天候に恵まれ生育は良好。生産者186人で105トを作付け。出荷量は735トを見込んでいます。出荷されたブロッコリーは、くみあい食品を通じて、全国の大型スーパーなどで販売されます。



中種子町園芸振興会ブロッコリー部会の森山昭市会長は「面積が年々増加し活気づいていいる。立派なブロッコリーを出荷でき嬉しい」と話しました。

